ＪＡグループ宮城 災害復興ニュース （　総　合　版　）

第１０２号

【平成 30 年 3 月 5 日（月）発行】
発行：ＪＡグループ宮城災害復興本部
編集：ＪＡ宮城中央会
〒980－0011　仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466

≪目次≫

１．ＪＡグループが東北の食と農の商談会。地域産品の魅力を発信、震災復興を支援
２．復興加速化へ思い新たに。宮城県協同組合こんわ会が「ジパング青春記」の貸切公演
３．原発事故農畜産物損害賠償で東電に約 565 万円を請求

１．ＪＡグループが東北の食と農の商談会。地域産品の魅力を発信、震災復興を支援

農林中央金庫と東北 6 県のＪＡグループは 2 月 21 日、仙台市内のホテルで「東北の食と農の商談会～震災復興そして農林水産業の成長に向けて～」を開きました。

東北各地のＪＡや農業法人、漁協、水産加工会社など 55 団体が、自慢の地場産品を出品し、スーパーや百貨店、ホテルなど 68 社のバイヤーに売り込みました。

販路拡大を目指し 55 団体が自慢の産品を売り込みました

ＪＡ古川は新商品ササニシキ米粉入りうどん「想里（ふるさと）」、ＪＡみどりのも新商品のレリッシュなどを展示。ＪＡいしのまきは手作りの「焼肉のタレ」、ＪＡ仙台は「仙大豆」シリーズのパスタなどをＰＲしました。

開会セレモニーで農林中金の後藤彰三常務は「震災で喪失した販路の回復はもちろんのこと、輸出拡大や産地連携など新しい取り組みも応援していきたい」と語りました。

出品食材を使った試食メニューも提供しました

ＪＡ宮城中央会の高橋正会長は「今後もこのような機会を生かして東北の農林水産業の創造的復興、発展に尽力していきたい」と語りました。商談会は震災の翌年から始め、今回が 7 回目。1 回目は宮城県単独での開催で、2 回目から東北 6 県に拡大しました。

２．復興加速化へ思い新たに。宮城県協同組合こんわ会が「ジパング青春記」の貸切公演

宮城県協同組合こんわ会は2月7日、劇団わらび座のミュージカル「ジパング青春記～慶長遣欧使節団出帆」の貸切公演を行いました。

こんわ会を構成するＪＡ宮城中央会、県生協連、県漁協、県森林組合連合会、日専連県連合会の組合員ら約800人を招待しました。

高橋会長のあいさつを聞く参加者

物語は、1611年に起きた慶長三陸地震の津波被害などを乗り越え、遣欧使節船事業にかける若者たちの姿を描いたものです。参加者は、７年前の東日本大震災を思い起こしながら、復興加速化にかける思いを新たにしました。

こんわ会の会長を務めるＪＡ宮城中央会の高橋正会長は「この公演が、皆さんの今後の活動の後押しになることを期待します」と語りました。

３．原発事故農畜産物損害賠償で東電に約565万円を請求

ＪＡグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は2月28日、第78次請求として東電に約565万円を請求しました。

内訳は、牧草地の除染に係る損害が362万円、牧草の利用自粛等に係る損害が203万円。1月31日現在、請求総額は333億8,424万円、受領総額は321億7,587万円で、請求対比で96.4%となっています。

以　上